

タクシーメーター

日本で自動車が走り始めた頃

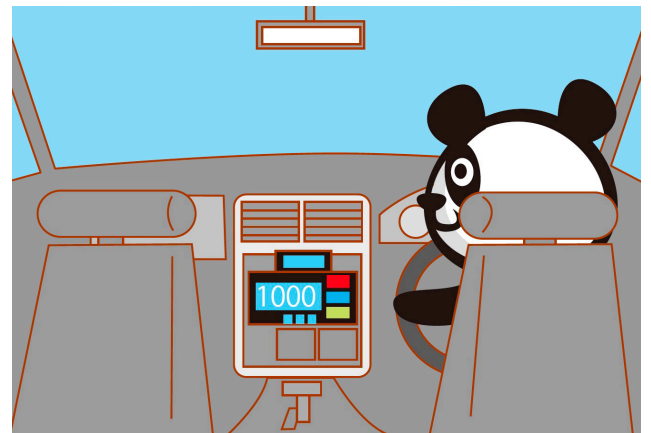
明治時代のはじめ、東京の道路には人力車や馬車が走っていました。まだ自動車なんて、ほとんど見かけませんでした。

でも、世界では、すでに自動車が発明されていました。明治18年(1885年)、ドイツのダイムラーとベンツという2人の発明家が、それぞれガソリン自動車を完成させていたのです。

日本で最初のガソリン自動車を作られたのは、それから22年後の明治40年(1907年)のことでした。東京自動車製作所で国産第1号車が誕生したのです。でも、当時はまだ珍しくて、一部のお金持ちが試しに乗ってみる程度だったそうです。

タクシーの誕生

それから5年後の明治45年(1912年)、東京の数寄屋橋のそばで、日本初のタクシー会社が営業を始めました。アメリカ製のT型フォードという車を6台使って、お客さんを運ぶサービスを始めたのです。これが好評でした！



タクシーはどんどん増えていきました。大正10年(1921年)頃には、約1,200台にもなりました。最初は車庫で待っているだけでしたが、だんだん街を流して走る「流しのタクシー」が登場しました。

料金をどう決める？

当時のタクシーメーターの料金設定は会社ごとにバラバラだったので、タクシーが増えるにつれて料金に関するトラブルも増えてき

長さ計 (ものさし)

タクシメーター

皮革面積計

目盛付タンク

質量計 (はかり)

圧力計と血圧計

化学用体積計

燃料油メーター (自動車等給油メーター)

ます

温度計と体温計

ガスメーター

液化石油ガスメーター

織度計

浮ひよう (密度・比重・濃度)

水道メーター

環境計量器

ました。

そんな中、「円タク」というタクシーが現れました。これは、市内ならどこまで行っても1円という、分かりやすい均一料金のタクシーでした。ところが、料金トラブルは逆に悪化してしまいました。人数や待ち時間でさまざまな割増料金がついて複雑化してしまっただけです。

そこで、みんなが公平に料金を支払えるように「正しく測るメーター」が必要となってきました。



初期のタクシーメーター
(東京都計量検定所蔵)

検定制度の始まり

昭和11年(1936年)、タクシーメーターは特別な計量器として指定されました。そして昭和14年(1939年)2月1日から、東京でも正式に検定検査制度が始まりました。

検定検査には3つの種類がありました。

1. 頭部検定：メーターの機械部分が正しく動くかを調べる
2. 走行検定：実際に走って、距離きょりが正確に測れるかを調べる
3. 料金検定：料金が正しく計算されるかを調べる

最初の走行検定は、品川の鮫洲さめずにある車検場の周りの道路を使って行われました。タクシーを実際に走らせて、メーターが正しく動いているかを確認したのです。

長さ計 (ものさし)

タクシメーター

皮革面積計

目盛付タンク

質量計 (はかり)

圧力計と血圧計

化学用体積計

燃料油メーター (自動車等給油メーター)

ます

温度計と体温計

ガスメーター

液化石油ガスメーター

織度計

浮ひよう (密度・比重・濃度)

水道メーター

環境計量器

検査場の進化

戦争が終わって、車がどんどん増えると、道路で走行し、検定を行うことが難しくなりました。千住の荒川土手や、芝公園の周辺、練馬区、晴海の埋立地^{うめたてち}など、そのつど場所を探して検定をしていました。でも、交通量が増えて、道路での検定はもう限界でした。

そこで昭和 34 年（1959 年）8 月、江東区に「深川検査場」という専用の施設ができました。ここには「定置式検定装置」という特別な機械があって、道路を走らなくても検定ができるようになったのです。

この装置は、タクシーの片方のタイヤを特別なホイール（回転する^{えんばん}円盤）の上に乗せて、その場で回転させて検査する仕組みでした。8 基の検定用ホイールがあり、係長以下 8 名の職員が検定を担当していました。

多摩^{たま}地区への対応

都心に検査場が 1 か所しかないと、遠くに住んでいるタクシー運転手さんは大変です。特に三多摩^{さんたま}地区（立川や八王子など）では、検定を受けていないタクシーが増えてしまいました。

そこで昭和 33 年（1958 年）12 月と昭和 34 年（1959 年）1 月に、立川の会社の車庫を借りて、臨時^{りんじ}の検定を行いました。わずか 3 名の職員で、20 日間に 600 台も検定したそうです！

これが好評だったので、昭和 34 年（1959 年）3 月から立川地区に臨時^{りんじ}の検定検査場を設けることになり、昭和 44 年（1969 年）まで続けました。



長さ計（ものさし）

タクシメーター

皮革面積計

目盛付タンク

質量計（はかり）

圧力計と血圧計

化学用体積計

燃料油メーター（自動車等給油メーター）

ます

温度計と体温計

ガスメーター

液化石油ガスメーター

織度計

浮ひよう（密度・比重・濃度）

水道メーター

環境計量器

さらに便利に

昭和43年(1968年)、検定検査の装置がさらに進化しました。「両輪掛^{りょうりんがけ}検定用ホイール」という新しい装置ができたのです。

これまでの装置は、タクシーのエンジンをかけて排気ガス^{はいき}を出しながら検査していましたが、新しい装置はモーターで動くので、排気ガス^{はいき}の問題が解決されました。しかも、検査のスピードも2倍になり、効率がぐんと上がりました。

昭和44年(1969年)4月には、ついに立川市に正式な「立川検査場」が開設されました。これで、深川と立川の2か所で検定ができるようになり、多摩地区^{たまたま}の人たちも便利になりました。

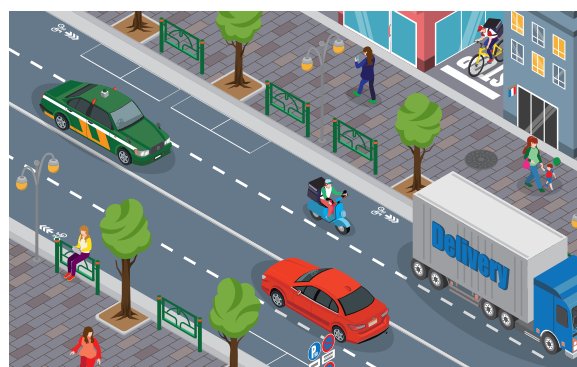


タクシーメーター立川検査場

タクシーの急増

昭和40年代、東京のタクシーはどんどん増えました。昭和47年(1972年)には約4万2,700台にもなりました。

昭和48年(1973年)5月、3つ目の検査場「竹芝^{たけしば}検査場」が開設



されました。これで、竹芝^{たけしば}、深川、立川の3か所で検査ができるようになり、合計10基の検定用ホイールが設置されました。

昭和49年(1974年)には、オイルショックという大きな出来事があり、ガソリンの値段が上がって、タクシーの料金も改定されました。このため、検査を受けるタクシーが前の年より40%も増えて、検査場は大忙しでした。

長さ計(ものさし)

タクシメーター

皮革面積計

目盛付タンク

質量計(はかり)

圧力計と血圧計

化学用体積計

燃料油メーター(自動車等給油メーター)

ます

温度計と体温計

ガスメーター

液化石油ガスメーター

織度計

浮ひょう(密度・比重・濃度)

水道メーター

環境計量器

個人タクシーの登場

昭和 34 年（1959 年）12 月、個人タクシーの営業が初めて認められました。会社のタクシーではなく、個人でタクシーを持って営業できるようになったのです。

その後、個人タクシーはどんどん増えて、昭和 50 年（1975 年）12 月には、会社のタクシーとほぼ同じ数になりました。

分かりやすい表示

合格したタクシーメーターには、検定証印という印が封印されていましたが、お客さんには分かりにくいという問題がありました。

そこで昭和 41 年（1966 年）11 月から、有効期限を書いたステッカーを貼るようになりました。これで、お客さんも一目で「このメーターは検査に合格している」と分かるようになったのです。



昭和 49 年（1974 年）には電子式タクシーメーターが登場します。
きょり へいようせい
 時間距離併用制や深夜・早朝割増など運賃制度の多様化に対応して、それを見やすく表示するようになりました。タクシーメーターは都市交通の実務に密着した「運賃インターフェース」としての役割が高まりました。

計量法では、タクシーメーターは「距離の実測」に基づく“長さ計”

長さ計（ものさし）

タクシメーター

皮革面積計

目盛付タンク

質量計（はかり）

圧力計と血圧計

化学用体積計

燃料油メーター（自動車等給油メーター）

ます

温度計と体温計

ガスメーター

液化石油ガスメーター

織度計

浮ひよう（密度・比重・濃度）

水道メーター

環境計量器

になっています。タイヤの回転に応じて距離を実測する計量器です。だからこそタイヤ径や空気圧、車両の歪み、配線・接続部の劣化などで計量精度が落ちてしまう可能性があります。東京都計量検定所では、装置検査を年に1度おこなって、タクシメーターの正確さを検査しています。

令和7年(2025年)に、GPSを用いて距離を計測する新たなタクシメーター（ソフトウェア型タクシメーター）が認定されました。

しかし、GPSなどの計測値を使う方式には、細かなカーブの距離が正確に反映されにくいことや、トンネル・高架下で計測が途切れること、都市部のビル街で反射（マルチパス）が起きて誤差が生じることなど、さまざまな課題があります。



しかし、通信技術の進歩は目覚ましいものがあります。ソフトウェア型タクシメーターも、便利さに正確性が加わって、安心して利用できるようになる日は、そう遠くないかもしれません。

正確なタクシメーターがあることで、私たちは安心してタクシーに乗ることができます。



長さ計（ものさし）

タクシメーター

皮革面積計

目盛付タンク

質量計（はかり）

圧力計と血圧計

化学用体積計

燃料油メーター（自動車等給油メーター）

ます

温度計と体温計

ガスメーター

液化石油ガスメーター

織度計

浮ひょう（密度・比重・濃度）

水道メーター

環境計量器